

会長就任ご挨拶

2023年5月25日



(一社) 日本伸銅協会 会長 宮崎 庄司
(株式会社神戸製鋼所 執行役員 素形材事業部門長)

この度は会員各社のご推挙により、日本伸銅協会の会長に就任することとなりました神戸製鋼所の宮崎でございます。

アフターコロナに向う歓迎面と世界インフレや中国経済停滞などの景気リスクとの両面が存在する中ではございますが、鬼王副会長、中島副会長、田口副会長と共に、会員の皆様のため、そして協会や伸銅業界発展に尽力致す所存でありますので、よろしく願いいたします。

さて、2022年度における我が国経済を振り返りますと、上期はロシア・ウクライナ問題や世界インフレの影響で減速しましたが、下期は継続する確インフレに加え人流回復に伴い個人消費が「モノ」から「事」への嗜好変化が生じ、更には環境対応への変化・変革がみられてきております。

世界経済につきましては、コロナ後の復帰が遅れている中国、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化影響・世界インフレなどが3年に亘るコロナ禍が引き起こす景気の疲れを加速させ、見通しは再び不透明に陥っております。

そのような環境の下、私ども伸銅業につきましては、2022年度は、上期では概ね前年度と同水準を維持したものの、下期は新規住宅関連の停滞や自動車を代表とする工業製品の各段階での在庫過剰感などで減速傾向となりました。

この結果、伸銅品生産量は当初見直しの73万4千トンに対し72万5千トン、コロナ前の2019年度の73万7千トンにやや届かないレベルとなりました。

品種別に見ますと「板条製品」に関しましては、自動車の生産が計画通り立ち上がり在庫過剰を引き起こし、更には民生や電子機器向け半導体も減速し停滞しております。

自動車向けの在庫は消化に向いつつあり、車種や品種によっては増加に転じ、一部の半導体パッケージにおいても復調の兆しが見えておりますが、全体を押し上げるまでには到達しておりません。

これら停滞要素が多い反面、CASE関連や脱炭素・省エネ対応製品やビジネスでは中長期的に増加が見込まれるものと期待しております。

「黄銅棒」につきましては、新規住宅着工件数や設備投資関連の停滞や、アフターコロナ移行に伴う巣ごもり需要の終焉で、一時の勢いが削がれた状況です。

今後は、部品や部材の不足や高騰、更には人手不足が引き起こす各工事現場の進捗遅れなどネガティブ要素と、アフターコロナでの人流回復に伴う観光施設や商業施設への投資増などポジティブな要素が見込まれ、注視が必要な時期に有ると思われる次第です。

また「銅管」につきましても、主力のエアコン向け用途に関し、昨年度の半導体や部品不足での減産が一段落を迎え、内需は堅調に推移するものと期待されます。またコロナ禍が落ち着き、学校などへの空調設置の据え付けが復調し、人流回復に伴う商業施設などの更新需要も相まって、前年度を上回ることも期待されます。

一方で各品種とも輸出関連については中国をはじめとする世界経済の雲行きが怪しく、しっかりと注視していきたいと考えております。

そのような中、日本伸銅協会では、今年度、次のような点について取り組んでまいります。

- ① 会員企業の事業活動に有益となる情報共有を行うため、サーキュラーエコノミーに資する国内の銅原料のマテリアルフローや近年世界的な業界再編が起こっていることを踏まえ、海外の伸銅品生産状況の調査の実施
- ② 労働安全衛生や環境配慮などへの対応のレベルを高めるための事業やその仕組み作り
- ③ 伸銅品技術ロードマップの改定を見据えた、共同技術開発や共同市場調査の実施
- ④ コロナ禍により延期されている庚話会（こうわかい）をはじめとした各種会員間行事の再開

その他、エネルギー・電気料金や原料対策などにも引き続き取り組んでまいります。

そして日本伸銅協会として 積極的に情報収集・発信を行っていくとともに、必要な場合には、政府への申し入れを行うことも検討していきたいと思っております。

こうしてみますと、我々伸銅業には足元の問題とともに、中期的な課題も多く、それらに一つ一つ取り組んでゆかねばなりません。

引き続き厳しい環境下ではありますが、会員相互の信頼関係を大切にしつつ、伸銅業界の社会的役割を果たしてまいり所存であります。